

**<図書紹介>ピーター・H・ジョンストン著 長田友紀・迎勝彦・吉田新一郎訳 『言葉を選ぶ，授業が変わる！』**

著者	菊田 尚人
雑誌名	筑波教育学研究
号	17
ページ	75-77
発行年	2019-03-01
URL	<a href="http://doi.org/10.15068/00155411">http://doi.org/10.15068/00155411</a>

## 図書紹介

ピーター・H・ジョンストン 著  
長田友紀・迎勝彦・吉田新一郎訳  
『言葉を選ぶ，授業が変わる！』

菊 田 尚 人\*

本書は、アメリカで25万部を売り上げたピーター・ジョンストンの『Choice Words』を長田友紀，迎勝彦，吉田新一郎の三氏が翻訳したものである。訳者らによるまえがきによれば，教室での言葉の使い方によって変わる子どもの学びの姿を学校種や教科を超えた豊富な事例をあげながら説明している原著は，コンパクトかつ重要な事柄を網羅的に取り上げているという。

本書では，教室における「言葉」について考えるためのヒントが独立した八つの章で説明されている。

- 第1章 言葉の使い方が，学ぶ内容や人間性を左右する
- 第2章 気づくことと，名づけること
- 第3章 アイデンティティー
- 第4章 主体性，そして選択するということ
- 第5章 柔軟性と，活用すること
- 第6章 子どもにとって「知ること」とは
- 第7章 民主的な学びのコミュニティをつくり続けるために
- 第8章 あなたは，「誰と話している」と思っていますか？

ここでは，それぞれの章で示されているヒントの一端を示すことで，全体の概要を示したいと思う。

第一章では，学びのコミュニティを生み出す上で，教師が用いる言葉がどれほど重要であるかが示されている。著者自身の経験などを例としながら「教師の

---

\*筑波大学大学院人間総合科学研究科

話し方によって、子どもの『学習』『言葉』『生活』『自分自身』に対する意味づけがなされる部分が多分にあるのです」と説明している。特に、「問題行動に対する教師の発言の違いによって、子どもに暗示されること」を整理した表からは、教師が自分の発する言葉や子どもの行動の背景に敏感になる必要性を実感できるだろう。

第二章では、子ども自身が身のまわりのものごとに気づくことを促すための働きかけが示されている。例えば、「新年度の第一週目に、学校の中をクラスで移動するときに静かに歩く練習をしたのを覚えていますか？今は自然にできていますね」という事例は、子どもが理想とする何者かになろうと成長し変化していることに気づかせているという。そうした周囲の働きかけによって、子ども自身が自分の気づきを手助けするように成長できると述べている。

第三章では、子どもが教室での自分自身の役割や責任を自覚することを促すための働きかけが示されている。例えば、書くことの教室の事例では「作家としてあなたは今日何をするのですか」といった問いかけの効果が説明されている。日本の一般的な教室ではあまり耳にしないアイデンティティーへの問いかけは読者に新鮮な驚きをもたらしてくれるだろう。

第四章では、子どもが「主体性の感覚」を身に付けることを促すための働きかけが示されている。この感覚について著者は「自分が行動すれば、とくに、よく考えて行動すれば、目標はきっと達成できる」という感覚であると説明している。「あなたはどうやってその答えを見つけたのですか」といった、筆者の言う「語ることのパワー」を背景とした事例を通して、読者は主体性についての理解を深まることができるはずである。

第五章では、子どもが学んだことを柔軟に活用しようとする考えを促すための働きかけが示されている。「他に方法はありますか。」「もし~だったら」といった問いかけをすることによって広がる子どもの思考の可能性について詳細に説明されている。特に、アンダーソン先生のカンファランス場面を分析した表を通して、教師からの一つ一つの問いかけがどれほどのメッセージを内包しているかを読者は視覚的に理解することができるといえる。

第六章では、教師と子どもという教室の権力関係を解消し、子どもが学びの主体になることを促すための働きかけが示されている。「もしあなたが、教室でのやり取りを私が紹介してきたようなものに変えたいのであれば」という一文から始

まる五つの事例は、具体的な実践方法がイメージしにくい読者に対し、多くのヒントを与えてくれるだろう。

第七章では、子どもが学びのコミュニティを作り出すことを促すための働きかけが示されている。この章の特徴は、教室での学びを越えて社会の一員としてどのように成長していくかという問題まで取り上げるほど論じている射程が広いことである。特に、「教育とは、『意味ある問題を設定し、解決する能力を高めること』だと捉えることが大切なのです。」という記述からは、本書が目指すところの壮大さを感じ取ることができるはずである。

第八章では、「あなたは」で始まる二つの問いを読者になげかけている。この章を通して読者は、これまでの章で語られてきたことを自身の問題としてより一層実感できるようになるだろう。この章で語られていることについては、実際に本書を手にとって考えていただきたい。

本書は、多様な読者がそれぞれに有益な知見を得られるものと思われる。会員の皆様にもお読みいただければ幸いである。

#### 【図書紹介・書誌情報】

ピーター・H・ジョンストン著 長田友紀・迎勝彦・吉田新一郎訳

『言葉を選ぶ、授業が変わる！』

ミネルヴァ書房，2018年，2,400円(税別)